

ハウサ語実施要領

研修言語及び研修生

当該言語（地域）の紹介：

ハウサ語はナイジェリアからニジェールにかけてのサバンナ地帯を分布の中心とする言語です。アフリカ諸国は多言語国家が多く、特にナイジェリアでは 500 以上とも言われる多くの言語が話されていますが、北部地域ではハウサ語が事実上の共通語となっていて、ハウサ以外の民族にも広く用いられています。また周辺諸国にも多くの話者がおり、ガーナ（特に北部）でも共通語の役割を果たしています。またハウサは古くからイスラム化し、交易を発達させサヘル地域の隅々に至るまで経済的文化的影響力を強く持つため、ハウサ語は西アフリカの都市文化およびイスラム文化を代表する言語となっています。このような影響力はナイジェリアが経済大国化することで現在も持続し、衛星テレビの拡充とともに映画や音楽など大衆芸能を通して、新たなイスラム系都市文化の発信源としてもその存在感を強めています。ハウサ語を学ぶことは、西アフリカにおけるダイナミックな社会の動きに隅々までアクセスする力を得ることでもあります。

研修内容：

本授業ではナイジェリアにおけるハウサ語の標準語とされているカノ方言を学びます。ハウサ語には多くの方言がありますが、カノ方言を知っていればコミュニケーションに問題はありませぬ。ハウサ語を聞き、話すためには発音、特に声調の正確な習得が必要になります。授業の前半は基本的な文を繰り返し読み、書き、ネイティブ講師との簡単な会話を少しずつ広げていくことで、最低限の語彙と文型を身につけることを目指します。授業の後半はハウサの暮らしや文化、歴史について書かれた簡単なテキストを読み、より複雑な文型と高度な語彙を学んでいきます。最終的には受講生各々がそれぞれにハウサ語能力を磨いていけるレベルに到達することが目標です。

研修の対象者：

本授業はハウサ語の初学者を対象とします。必須となる知識・経験は特にありませんが、多少の英語力があれば辞書や参考書の選択の幅が大変に広がります。また音声学の基礎的な知識があると、ハウサ語独特の発音の理解に役立つでしょう。

使用テキスト：

文法を中心とした教科書、会話例文、リーダー、語彙集を本授業用に編纂します。その他参考図書類は授業中に紹介します。

研修期間及び研修時間

2013 年 8 月 7 日（水）～ 2013 年 9 月 13 日（金） 125 時間

午前 10 時 30 分 ～ 午後 5 時 00 分（土曜日・日曜日及び 8 月 12 日～14 日は休講）

受講料 75,000 円（教材費込み）

担当講師 塩田 勝彦
Musa Ibrahim

研修会場 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
（〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1）

アルメニア語（東）実施要領

研修言語及び研修生

旧ソ連から独立したアルメニア共和国の国語である東アルメニア語を基礎から学ぶ入門講義です。アルメニア語は印欧語族に属しますが、独自の文字を保持する、古来文法性が存在しないなど、際立った特徴がある言語でもあります。

今回は入門講義ですので、文字や発音の説明、基本的な会話表現から始めて、最終的には簡単な新聞記事や物語が読め、アルメニアを一人で旅行しても不自由しないレベルの語学力が身につくように指導いたします。また、旧ソ連諸国でしばしば見られるように、日常語レベルでのロシア語の影響力は今でも大きいのですが、ロシア語の知識がない方を想定して講義いたしますので、ロシア語未習の方もご安心ください。

講義では、日本人講師が東京外国語大学外国語学部で長年東アルメニア語を指導してきた経験に基づいて作成したオリジナルテキストを用いるだけでなく、アルメニア人講師の本文のモデルリーディングや会話表現の説明を聞いていただくことで、自然な発音や生きた表現が習得できることが期待されます。また、今回出講する日本人、アルメニア人の講師双方とも、相手国で生活した経験があるため、単なる文法や語彙の反復練習にとどまらず、社会や文化の面からも幅広くアルメニア人の言語世界を受講者の方々に理解していただけるように努めます。極力現地の画像も講義中にお見せする予定です。

なお、今回取り上げる東アルメニア語は、トルコから欧米に移住したアルメニア人が使用する西アルメニア語とは発音や基本語彙の面で異なり、語尾変化にも若干の違いがありますが、本講座で東アルメニア語の基礎を学べば、西アルメニア語への移行も容易となるでしょう。

研修期間及び研修時間

2013年8月5日（月）～ 2013年9月4日（水） 100時間

午前10時00分～午後4時30分（土曜日・日曜日及び8月12日～14日は休講）

受講料 60,000円（教材費込み）

担当講師 吉村 貴之
アストギク・ホワニシャン
メリネ・メスロピャン
ザラ・バラヤン

研修会場 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
（〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

ウズベク語実施要領

研修言語及び研修生

ウズベク語は中央アジアに位置するウズベキスタン共和国の国家語です。かつてはシルクロードの民ソグド人が暮らし、西からはアレキサンドロス大王が、東からはチンギス・ハーンが遠征で訪れ、英雄ティムールが国を興した、悠久の歴史ロマンを誇る中央ユーラシアの大地で現在話されています。この地域では最も話者人口（2 千数百万）が多く、話し手は周辺諸国にも広く居住します。アルタイ諸語の内、チュルク語（トルコ系言語）チャガタイ（～カルルク）語群に分類され、現代ウイグル語（中国・新疆ウイグル自治区）とは相互理解が容易な方言関係にあります。基本語順は日本語と同様「主語・目的語・述語」型で活用も規則的なため、日本人には学び易い言語です。ただし、語彙には見慣れないアラブ・ペルシア系の単語が多いです。表記にはウズベキスタンではキリル文字（ロシア文字）とラテン文字（ローマ字）が通用しています。前者は旧ソ連時代の 1940 年以來用いられてきたもので、後者は 1991 年のソ連崩壊による独立を機に 1995 年に正書法が制定され将来の完全移行を目指して正式導入されたローマ字アルファベットによる文字体系です。

さて、本研修ではそのラテン文字を用いてウズベク語を初歩から学びます。授業は文字と発音から始め、文法の基礎を学びながら書取りや読解、作文や会話といったトレーニングを盛り込みつつ、ネイティブと一緒にレッスンを進めます。そして、最終的には旅先でもすぐに役立つような、簡単な日常会話ができるレベルを目指すものとします。

本研修で使う教材は 5 冊の予定です。日本人講師が準備する文法書と文法理解のトレーニング帳、そして辞書。インフォーマントの作成による会話・講読用の各々の教科書です。ウズベキスタンやウズベク語、中央アジアに興味・関心をお持ちの皆様のご参加を歓迎致します。

研修期間及び研修時間

2013 年 8 月 6 日（火）～ 2013 年 9 月 6 日（金） 125 時間

午前 10 時 00 分～午後 5 時 00 分 （土曜日・日曜日および 8 月 14 日～16 日は休講）

受講料 75,000 円（教材費込み）

担当講師 中嶋 善輝
藤家 洋昭
Juliboy Eltazarov

研修会場 大阪大学箕面キャンパス
(〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1)

会場へのアクセス

[ハウサ語, アルメニア語(東)]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

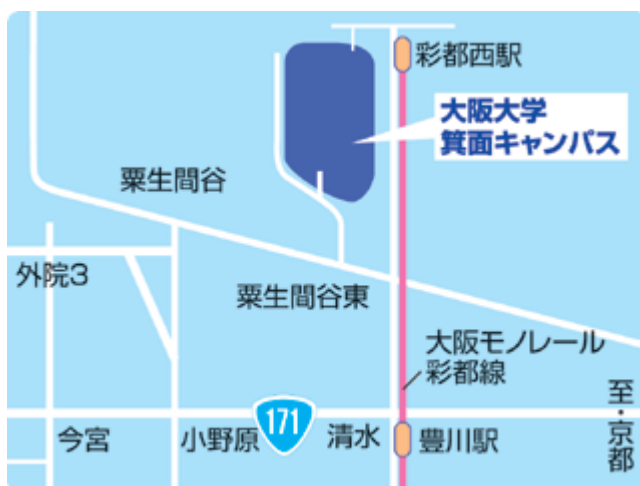


西武多摩川線多磨駅から徒歩約 5 分

京王線飛田給駅北口から京王バス「多磨駅行」に乗車, 「東京外国語大学前」停留所で下車, 徒歩約 2 分 (バス所要時間約 10 分)

[ウズベク語]

大阪大学箕面キャンパス
〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1
TEL 072-730-5111



大阪モノレール 彩都線
彩都西駅から西へ徒歩約 15 分

阪急バス

○「千里中央」駅発「阪大外国語学部前行」, 「間谷住宅行」
○「北千里駅」発「阪大外国語学部前行」, 「間谷住宅行」
「阪大外国語学部前」下車, 徒歩約 2 分
「間谷住宅 4」下車, 徒歩約 3 分